

(代表質問)

質問日	令和5年9月28日(木)		質問方式	分割方式			
質問順位	4	会派名	創造浜松	議席番号	21	氏名	遠山 将吾
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 財政・大都市制度について	<p>(1) 現在の中期財政計画の最終年度が令和6年度であり、いよいよ締めめの段階である。現計画の目標値を達成するために、これまで本市では、行財政改革を推進し健全財政を堅持し、ここまでの計画値を達成してきた。</p> <p>しかし、令和5年度にも大型公共事業に伴う大規模な歳出があり、また、今後も公共施設の長寿命化計画や高齢化に伴う社会保障費の拡大など、歳出拡大につながる要素がある。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>ア 今後の本市の財政運営について、特にこれまでのような健全な財政運営に関する市長の考えについて伺う。</p> <p>イ 現在の中期財政計画の目標値と財政状況及び今後の推移について伺う。</p> <p>ウ 公共施設の長寿命化による財政的な効果、市民サービスに対する効果と今後について伺う。</p> <p>(2) 大都市制度について、市長は自身のホームページにも特別自治市の実現を政策に掲げている。</p> <p>そこで、市長の特別自治市に対する考えについて、そして、今後の推進の考えについて伺う。</p>						中野市長 石切山財務部長 " 中野市長
2 少子化・人口減少問題について	<p>(1) 昨年の本市の住民基本台帳に基づく年間の出生数(外国人を除く)は、4951人と過去最低を記録した。</p> <p>本市で生まれ育ち本市に残る人数、また、他都市からの社会的移動での流入を考慮しても、今後も厳しい状況が続くことが想定される。</p> <p>本市の産業構造を考えると、非常に高い技術の蓄積による高レベルのサプライチェーンの構築に優位性があり、その中で活躍している一人一人の技術力に支えられてきた。</p> <p>社会では、様々な仕事がAI技術により人が機械に代替されると言われているが、本市の労働者のような高度な技術力を有する者がAIなどに置き換わる状況が本当に発生するのかは、非常に疑問であると思うが、以下の点について伺う。</p> <p>ア AI等による労働力の補完の可能性とものづくりのまち・浜松のマンパワーの必要性について伺う。</p> <p>イ 人口減少と本市において不足する労働人口の見通</p>						北嶋産業部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>しについて伺う。</p> <p>ウ 本市の労働力不足を補うための支援体制について伺う。</p> <p>(2) 人口減少は避けられない。そうであれば全ての子どもたちが将来、社会で役割を担い活躍できる環境づくりが求められる。例えば、発達障害など特別なケアが必要な子どもの増加の課題については、より広い社会理解の中で、全ての人が関わり解決していくことを目指し、取り組んでいく必要がある。</p> <p>そこで、学校の現場での対応について伺う。</p> <p>ア 学校と市長事務部局の健康福祉部・こども家庭部との連携の現状について伺う。</p> <p>イ 学校現場の教職員の負担はかなり大きくなっている現状に鑑み、市長事務部局との連携強化のため、学校教育部内に福祉担当のグループを創設するなど、体制の強化を図る考えはないか伺う。</p> <p>ウ スクールソーシャルワーカーの現場での評価は高いが、スクールソーシャルワーカーの統括・情報共有などの状況について伺う。</p> <p>エ 発達支援学級の児童・生徒への対応として、実際の現場での状況に鑑み、必要な教職員の配置の状況と併せて、クールダウンスペースなどの確保の現状について伺う。</p> <p>(3) 本市では子どもの居場所づくり事業費補助金を支給し、ここ数年で子どもの居場所の数を大幅に増加してきた。主任児童委員や子どもの居場所づくりのボランティアの方々との連携強化により、子どもたちへの支援の体制を強化し、それぞれが、より広い知識で子どもたちへ対応できれば、子どもたちの未来に新しい道が提案できる可能性も出てくる。</p> <p>そこで、地域で子どもを支える仕組みの強化について伺う。</p> <p>ア 子ども食堂と学習支援の連携強化についての考えを伺う。</p> <p>イ 子どもたちへの生活支援・進路指導に関わる情報発信について、子どもの居場所を活用する考えを伺う。</p> <p>ウ 主任児童委員や子どもの居場所づくりに関わるの方々への講習会等の実施について伺う。</p> <p>(4) 少子化対策では、若者たちに家庭を築く喜び、子どもを育てることの幸福感を理解してもらえるか、またその後の行政の支援も重要であるが、まずは、若者の出会いの場を創出する取組が今以上に必要だと感じる。</p> <p>そこで、若者の出会いの場の創出に関する本市の取組について伺う。</p>	<p>奥家学校教育 部長</p> <p>吉積こども家 庭部長</p> <p>〃</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
3 災害対策について	<p>本市は今年も6月2日に豪雨災害に見舞われた。近年の線状降水帯の発生による豪雨、気候変動に起因すると思われる集中的な大雨は、どの自治体でもその対応、対策に苦慮しており、既にハード整備だけでは完全には対応できないレベルにあるように感じる。</p> <p>一部の消防団、水防団の分団庁舎では救助用のボートを備えており、ボートを活用した訓練も行っているが、近年の豪雨災害の際には分団庁舎に参集することも難しい。水防団の活動についても、危険を伴う中での活動とならないか心配でもあり、地域住民の生命財産を守るための活動が安全にできる体制づくりも急務である。</p> <p>本市は各家庭の車の所有台数が非常に多く、水害の際には車の浸水を非常に心配される市民の方が多い。学校教育の面では、これまで、長年にわたり、地震に対する避難訓練は行ってきたが、近年の状況に鑑み、豪雨時の避難や、対応に関する教育についても取り組んでいくべきであると考え、以下の点について伺う。</p> <p>(1) ハード整備について伺う。</p> <p>ア 市内の市街地を流れる代表的な河川の整備目標と近年の豪雨の状況について伺う。</p> <p>イ 河川整備の現状と今後について伺う。</p> <p>ウ 下水道事業における具体的な雨水処理施設の整備状況について伺う。</p> <p>(2) ソフト対策について伺う。</p> <p>ア これまで以上のソフト対策の強化策について伺う。</p> <p>イ 風水害に対する学校での防災教育・避難訓練について伺う。</p> <p>(3) 地域防災について伺う。</p> <p>ア 地域を守る消防団の豪雨災害時の参集における課題と今後の対策について伺う。</p> <p>イ 水防団の活動状況と課題について伺う。</p> <p>ウ 車社会の本市における車の避難の考え方について伺う。</p> <p>エ 民間施設との連携協定等の状況について伺う。</p>	<p>伏木土木部長</p> <p>〃</p> <p>朝月水道事業及び下水道事業管理者</p> <p>石田危機管理監</p> <p>奥家学校教育部長</p> <p>太田消防長</p> <p>伏木土木部長</p> <p>石田危機管理監</p> <p>〃</p>
4 部活動の地域移行について	<p>部活動の地域移行の現状と進捗について伺う。</p> <p>(1) 過去の議会質問と答弁を受けて、部活動の地域移行の現状と進捗について伺う。</p> <p>(2) 今年度から中体連の夏の総体にクラブチームの参加が認められ、大会に大きな影響を与えたが、これに関して、中学校体育連盟との意見交換、課題の共有を行う予定はないか。併せて、学校部活動として確認している課題を聴取する予定はないか伺う。</p>	<p>奥家学校教育部長</p> <p>〃</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(3) 8月29日に視察に行った山形県では、部活動地域移行コーディネーターを配置し、生徒が少なく部活動の維持が難しい市町村の中学校で課題解決に当たっている。</p> <p>また、民間委託で地域移行の実証研究を行っている横浜市へも視察に行った。結論として、両地域共に、できるところからやる、できないところはやれない、ということで一律に同じ手法を取ったり、同じ仕組みで移行をしていくという考えではなかった。そこで、本市において部活動地域移行コーディネーター事業を検討する考えはないか伺う。</p> <p>(4) 7月に視察に行った笠間市では、廃校になった中学校を活用して、プロ野球チーム・茨城アストロプラネッツが拠点を置き、そこで障がい者就業支援事業を行いつつ、プロ野球選手が使用するジムや体育館の運営を行っており、地域住民も安価に活用できる事業が展開されていた。また、農福連携にスポーツを掛け合わせたすばらしい事業を、民間事業者と行政が連携して展開していた。</p> <p>そこで、練習場所としての遊休公共施設の利活用について伺う。</p> <p>ア 本市でも廃校を含む公共施設を利用し、スポーツチームや総合型地域スポーツクラブの育成や、部活動として継続する学校で指導に当たる部活動指導者・外部指導員の育成につながるような施策を検討できないか伺う。</p> <p>イ 障がい者スポーツの推進に当たり、部活動の地域移行に合わせ、地域クラブについて、既存のスポーツだけでなく、福祉も連携し、障がい者スポーツの推進も含めた日常的に生涯スポーツに取り組める環境の整備を目指す考えはないか伺う。</p>	<p>奥家学校教育 部長</p> <p>嶋野文化振興 担当部長</p>
<p>5 人口減少と家庭ごみの排出量について</p>	<p>家庭ごみの有料化について、6月26日に行われた市長の定例記者会見で、議案提出時期を再度検討する考えが示された。今後の社会・経済状況により適切な時期を検討するということではあるが、ごみの有料化の目的は、ごみの減量である。</p> <p>今後、人口減少が進む中で、排出されるごみの総量は減少していくことは、想像に難しくなく、その上で、この議論も進めることが必要であるとも考える。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 人口減少によるごみ排出量の減少の見通しについて伺う。</p> <p>(2) 市民が、どの計画に基づき、どのくらいの減量をする必要があるか、容易にアクセスでき、確認できるように示す考えはないか伺う。</p>	<p>山田環境部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
6 観光政策について	<p>本市では、国内の観光需要は、大河ドラマ「どうする家康」などの影響もあり盛況である。</p> <p>インバウンド需要については、コロナ禍において、今後の観光需要の喚起策として、ターゲットを明確にして取り組んだデジタルマーケティング推進事業など様々な事業を行ってきた。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 本市の観光需要の現状について伺う。</p> <p>(2) 本市における大河ドラマの影響とその後の取組について伺う。</p> <p>(3) コロナ禍に実施したインバウンド喚起策の効果と今後の見通しについて伺う。</p>	齊田観光・ブランド振興担当部長
7 マイナンバー・マイナンバーカードについて	<p>マイナンバー制度は、国民にとって利便性の高い公平・公正な社会を実現するための社会基盤である。</p> <p>しかしながら、誤りもづけの問題など表に出るのは悪いニュースが多く、市民の多くが不安に思うところである。</p> <p>そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 本市が提供する行政サービスにおいて活用するマイナンバーにひもづけられる情報の管理とリスクについて伺う。</p> <p>(2) マイナンバーカードについては、市民の利便性・福祉の向上と行政側の事務の効率化のために、より多くの分野で活用されるべきであると考えている。</p> <p>しかし、マイナンバーカードを使用する事業は一部に限られており、市民は取得しても使用する機会は限られている。</p> <p>そこで、マイナンバーカードを活用したこれまでの取組と今後の活用の方向性について伺う。</p>	中野市長 水谷デジタル・スマートシティ推進部長